

時代を先取りした作家

# 梶山季之をいま見直す

没後 33 年記念事業

**講演とシンポジウム** (無料・先着順)

日時 : 2007 年 5月20日(日)

開場 午後 1 時

場所 : 広島平和記念資料館 (原爆資料館)

東館地下 1 階メモリアルホール

広島市中区中島町 1-2

【記念講演】午後 1 時 30 分～

藤本 義一氏 (作家)

「梶山先輩と私」



＜梶山季之＞1930 年生まれ。ジャーナリスト、作家として活躍。1975 年、取材先の香港で死去。代表作に「李朝残影」「黒の試走車」「赤いダイヤ」など多数

【シンポジウム】午後 2 時 30 分～

橋本 健午氏 (電子版「梶山季之資料館管理人」、ノンフィクション作家)

小谷 瑞穂子氏 (作家、歴史学者、日本評論家協会理事)

高橋 呉郎氏 (フリーライター、元・月刊「噂」編集長)

天瀬 裕康氏 (作家・日本ペンクラブ会員) =コーディネーター

司会・藤野 能子氏 (フリージャーナリスト)

## 文学資料展「梶山季之の仕事と作品」

6月1日～6月20日 広島市立中央図書館（予定）

主催 梶山季之記念事業実行委員会 広島大学 同大文書館  
協力 広島市立中央図書館 広島市映像文化ライブラリー  
広島市立図書館メイト発起委員会

## 映画上映

同期間中に「李朝残影」「族譜」などの映画上映と読書会

主催・協力 文学資料展と同じ

### 梶山季之 Kajiyama Toshiyuki 略歴 <1930. 1. 2～1975. 5. 11>

梶山季之は、脚本、週刊誌のライター、作家として1958年(昭和33)から1975年(昭和50)まで活躍。

58年、文芸春秋のライターになると、58年11月「週刊明星」で「皇太子の恋(話題小説)」として皇太子妃候補をスクープする。59年からは数人の部下を育成して週刊誌のグループ取材方式を確立し、グループは「梶山グループ」「梶山軍団」等の異名をとった。61年1月から聴取者の意見により物語の進行が決まるという新しい形式のラジオドラマ「愛の渦潮」を執筆、話題となる。

62年、「黒の試走車」がベストセラーとなり、一躍、流行作家となった。自動車の開発競争にまつわる産業スパイを扱った「黒の試走車」や、小豆相場を題材にした「赤いダイヤ」などで産業小説・経済小説の先駆けとなり、「女の警察」、「と金紳士」、新幹線用地買収を題材にした推理小説「夢の超特急」等の時代の潮流を鋭い視点でとらえた話題作を次々に発表し、映画化、ドラマ化、劇画化された作品も数多い。一方、63年に直木賞候補となった「李朝残影」、「族譜」などの朝鮮シリーズや、ルポルタージュでも健筆をふるった。70年には高額所得者番付作家部門で1位となるが、翌年12月に月刊誌の仕事を通る「休筆宣言」を行い、ライフワークへの取り組みを始めるが、取材先の香港で75年5月11日客死した。

## 「いま見直す梶山季之」記念事業

本年は作家、梶山季之が亡くなって33年目、仏教でいう33回忌の年に当たります。そこで私たちは、この機会に梶山季之ゆかりの地、広島で改めて彼の業績を見直す記念事業を開きたいと考えました。

ご承知のとおり1960年前後にトップ屋の異名をとった記者集団「梶山軍団」を率いて草創期の日本の週刊誌文化に一時代を画した梶山季之は、すぐれたジャーナリストである半面、「黒の試走車」「赤いダイヤ」などの社会派小説や大衆小説でも知られます。その一方で「李朝残影」などの朝鮮シリーズに代表される朝鮮と原爆、移民を終生のテーマとした硬派の作家でもありました。

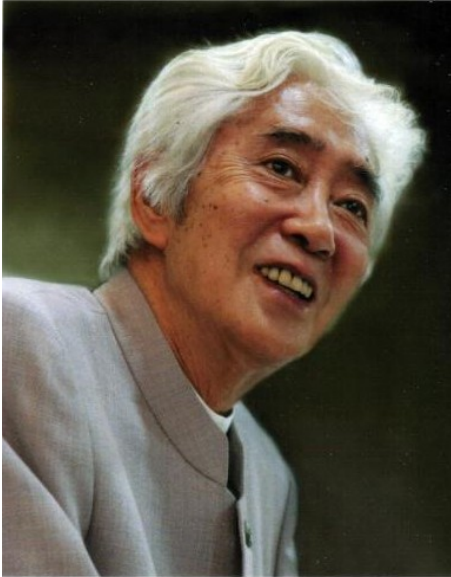
1930年、当時の朝鮮に生まれた梶山は敗戦後、父の郷里である広島に引き揚げ、青春時代を過ごした後に上京し才能を開花させました。15年余の間に爆発的にこなした仕事量は、美那江夫人の「積乱雲—梶山季之その軌跡と周辺」にも編まれたように膨大で目を見張らせるものがあります。自費で刊行した“活字にならなかったお話の雑誌”月刊「噂」も特筆されます。しかし、時代の寵児となりながら休筆して終生のテーマに取り組み始めた矢先の1975年5月11日、取材先の香港で45歳の若さで客死しました。

梶山の仕事は近年、朝鮮シリーズなど著書の再版、復刊が相次いでいます。昨年秋には青年劇場が「族譜」（脚本・演出ジェームス・三木）を上演、今年に入っても各地でシンポジウムなどが開かれています。この命日に合わせては、松籟社から「梶山季之と月刊『噂』」も刊行されました。彼の仕事に時代を超えた先見性と普遍性があったゆえんでしょう。

2007年5月20日

梶山季之記念事業実行委員会

## <藤本義一氏プロフィール>



作家・日本放送作家協会関西支部支部長  
社会福祉法人のぞみ会「浜風の家」 理事長

\* 「浜風の家」は、震災を機に多くの人々の寄付によって建てられた児童館。社会福祉法人「のぞみ会」が運営

1933（昭和8）年1月大阪府堺市生まれ  
大阪府立大学経済学部卒業  
学生時代からラジオ・テレビドラマの脚本、舞台脚本を手がける  
昭和32年「つばくろの歌」芸術祭戯曲部門で文部大臣賞受賞  
昭和49年「鬼の詩」で第71回直木賞受賞  
テレビ「11pm」の番組開始から25年にわたり司会をつとめた

映画界に於いては、故川島雄三監督に師事。脚本「貸間あり」「犬シリーズ」「駅前シリーズ」「悪名シリーズ」

昭和40年代に本格的に小説を書き始める。大阪の人情話・商人道などをテーマに取り上げ、突き放しながらも、軽妙なタッチで描く作風は、上方文化を愛するものには、こたえられない魅力をもってひきつける

著書 「鬼の詩」「迷子の天使たち」「蛍の宿」  
「よみがえる商人道」「なにわ魂」「一日は長い・一生は短い」  
「人生の賞味期限」「人生レシピ」「人生の自由時間」  
「徒然草が教える人生の意味」「ケッタイな律義者」

昭和40年代半ばに今東光氏中心に「野良犬会」が結成され、その事務局長が梶山季之氏だった。雑誌「噂」が創刊された頃である。野良犬というのは定った出版社と関係を持たずに自由に作品を発表出来る立場の11人が集った会であり、年に2、3度は東京で会合をもち、私と梶山氏は遊び仲間として親しくなった。梶山氏が亡くなった時、香港の空港で30m離れた距離で梶山氏に大声で呼ばれたのが最後だった。梶山氏の葬儀の時に私は式進行と弔文代読をした。

## <シンポジストプロフィール>



特別

### 【橋本健午氏】～演題：生まれ故郷朝鮮と梶山季之

1942年、中国・大連生まれ。66年、早稲田大学第一文学部文学科露文学専修卒業。同年11月より梶山季之の助手。75年5月、香港で客死した梶山の遺体を迎えに行く。

著作：韓国及び梶山関係では日本経済評論社より『父は祖国を売ったか—もう一つの日韓関係—』82・07と20世紀の群像・『梶山季之』97・07を上梓。また論文では「梶山作品とユダヤ問題」（梶山美那江編『積乱雲 梶山季之—その軌跡と周辺—』季節社98・02）や「“史実”と“真実”『父は祖国を売ったか』刊行から十八年経った今…」（『梶葉』（終刊号・梶山季之文学碑管理委員会〈広島〉）00・07）などがある。

梶山季之とは“引き揚げ”“午年”が共通のキーワードである私はソウルも韓国も知らないが、最初に書いたノンフィクションものは“日帝 36 年”下の日韓関係で、梶山家に残されていた朝鮮関係の資料が大いに役に立った。ここでは、「梶山季之 ★“故郷”朝鮮への熱き想い」（『韓国・朝鮮と向き合った 36 人の日本人—西郷隆盛、福沢諭吉から現代まで—』館野哲編著・明石書店 02・04 所収）を中心に、初期の作品「李朝残影」「族譜」「性欲のある風景」など朝鮮ものから見た梶山の根底にあるもの、そして私の目に映った実像について触れてみたい。



### 【小谷 瑞穂子氏】～演題：ハワイ／南米・ユダヤ移民への視点

1953年広島大学文学部西洋史学科卒。1954年米国コーネル大学院教育学部社会科修士課程卒。1955年コロンビア大学院政治学部アメリカ史専攻。1957年ハイデルブルク大学（ドイツ）、ソルボンヌ大学（フランス）など歴訪後帰国。結婚後、フリーランスとして文芸、社会、政治評論を新聞・雑誌に書く。「Far East 同時代セミナー」主宰。

著作：『十字架のユダヤ人』（サイマル出版会 1989）、『ユダヤ系芸術家たち』（サイマル出版会 1991）、『ヒロシマ巡礼—バーバラ・レイノルズの生涯—』（筑摩書房 1995）など。

梶山季之は、朝鮮-広島-ハワイの地点に立って、「積乱雲」と題する、大河小説を書こうとしていた。朝鮮は彼が生まれ育った京城（ソウル）体験がある。原爆都市ヒロシマは原爆をテーマにジャーナリストとして生きようとした青春の土地であり、瀬戸内海沿岸の父の実家がある地御前村は朝鮮、ハワイ、南米に家族が移民していった移民村である。彼の母はハワイ二世である。梶山美那江夫人は「積乱雲」の取材のため香港で客死した夫の無念を思い、23回忌のときに、『「積乱雲」梶山季之—その軌跡と周辺—』を上梓した。この『積乱雲』を元に、「ハワイ・南米・ユダヤ移民への視点」に触れてみたい。



## 【高橋呉郎氏】～演題：梶山季之が『噂』に託した

### もの

1933年、千葉県生まれ。早稲田大学仏文科卒。光文社入社。『女性自身』『宝石』編集者を経て、1971年から『噂』編集長。休刊後、フリーライター

著書：『週刊誌風雲録』（文春新書 2006年）など

文壇・出版界には、口伝による逸話・ゴシップの類がいっぱいあるが、口伝のために、やがて消えていく。梶山さんは、それをなんとか活字に残せないか、と前々から考えていた。その発想から月刊誌『噂』が生まれた。創刊は昭和46年7月。通巻32冊、49年2月に、赤字のため休刊のやむなきに至った。私は、その編集を任された。いわば“敗軍の将”だが、この小雑誌が残したものを考えてみたいと思う。



## 【天瀬裕康氏】～演題：原爆後の広島

1931年、広島県生まれ。本名・渡辺晋。岡山大学大学院医学研究科卒。1988年より天瀬裕康の筆名を使用。現在、日本ペンクラブ会員、広島ペンクラブ監査、「広島文芸派」同人。

著書：日本の短編作家シリーズ⑫『誰が…と問うでなく』（1998年8月、近代文芸社）など

戦後、ソウルから父の郷里・広島県佐伯郡地御前村に引き揚げた梶山季之は広島二中に編入された。昭和22年に爆心地に近い水主町に転居した彼にとって、原爆は大きなテーマになった。広島高等師範学校入学後は、広島ペンクラブ、広島文学協会の設立に尽力したが、この間、原爆ものにも手を染める。広島復興の原動力となった自動車産業や、それにまつわる経営者の伝記も書いているので、これも含め梶山の広島への想いを瞥見する。

## 実行委員会・世話人会名簿

### 【実行委員会】

|     |        |                   |        |
|-----|--------|-------------------|--------|
| 委員長 | 平岡 敬   | (前広島市長)           |        |
|     | 石井 泰行  | (賀茂鶴会長)           |        |
|     | 今中 亘   | (中国新聞特別顧問)        |        |
|     | 碓井 静照  | (広島ペンクラブ会長・県医師会長) |        |
|     | 宇田 誠   | (広島商工会議所会頭)       |        |
|     | 金井 宏一郎 | (中国放送社長)          |        |
|     | 川本 一之  | (中国新聞社長)          |        |
|     | 原田 康夫  | (広島大学同窓会会長)       |        |
|     | 松田 元   | (広島東洋カープオーナー)     |        |
|     | 牟田 泰三  | (広島大学学長)          |        |
|     | 山本 一隆  | (広島経済同友会代表幹事)     |        |
|     | 山根 恒弘  | (山根木材社長)          | =50 音順 |

### 【世話人】

|    |       |                        |        |
|----|-------|------------------------|--------|
| 代表 | 竹内 泰彦 | (平安堂梅坪社長)              |        |
|    | 天瀬 裕康 | (作家・日本ペンクラブ会員)         |        |
|    | 海老根 勲 | (花幻忌の会事務局長)            |        |
|    | 小田 和美 | (コンベンションクリエイトスタッフ)     |        |
|    | 小野 増平 | (中国新聞顧問)               |        |
|    | 川杉 浩一 | (みづま工房前会長)             |        |
|    | 小池 聖一 | (広島大学文書館長)             |        |
|    | 小林 正典 | (コンベンションクリエイト代表)       |        |
|    | 杉川 雄一 | (メディクス代表取締役・季刊「旬遊」発行人) |        |
|    | 長井 寛之 | (スプール代表取締役)            |        |
|    | 奈宮 知子 | (広島市役所)                |        |
|    | 舟木 隆典 | (時事通信広島支社)             | =50 音順 |

### 【事務局】

|      |        |                 |  |
|------|--------|-----------------|--|
| 事務局長 |        |                 |  |
|      | 富沢 佐一  | (中国新聞事業出版センター長) |  |
| 次長   |        |                 |  |
|      | 松尾 久美  | (主婦)            |  |
|      | 片岡 いほり | (中国新聞企画開発職員)    |  |

### 協 賛 企 業

賀茂鶴酒造 電通 アンフィニ広島 シンコー 中国新聞社 中国電力 広島ガス 広島銀行  
広島信用金庫 広島電鉄 広島東洋カープ 広島ホームテレビ 福屋 マツダ 中国印刷 中国  
新聞サービスセンター 中国放送 テレビ新広島 広島エフエム放送 広島テレビ放送 平安堂梅坪  
医療法人社団 渡辺医院 碓井内科胃腸科医院 広島県医師会 あじかん オタフクソース ヒロ  
ツク みづま工房 メディクス カクサン食品 増田製粉 エビス電工  
(4月25日現在)

(問い合わせ・連絡は ☎082-927-3408 携帯 090-9467-6142 小野 増平)